



Think Globally! Challenge for your Career!

外国留学中間レポート



留学中のみんなから、中間レポートが届きました!



2022 SPRING 発行



外国留学中間レポート 2022 SPRING

目次

ウィーバー州立大学(アメリカ)	
マネジメント創造学部 特別留学コース 3年	2
ビクトリア大学(カナダ)	
文学部 英語英米文学科 3年	3
マネジメント創造学部 マネジメントコース 3年	4
リーズ大学(イギリス)	
文学部 人間科学科 3年	5
マードック大学(オーストラリア)	
マネジメント創造学部 マネジメントコース 3年	6
ライプツィヒ大学(ドイツ)	
文学部 英語英米文学科 3年	7
東義大学(韓国)	
法学部 法学科 2年	8
文学部 英語英米文学科 2年	9
漢陽大学(韓国)	
経営学部 経営学科 3年	10
経営学部 経営学科 2年	11
経営学部 経営学科 2年	12
慶熙大学(韓国)	
経営学部 経営学科 2年	13

ウィーバー州立大学（アメリカ）
マネジメント創造学部 特別留学コース 3年
【交換留学】留学期間：2021年8月～2022年4月

ウィーバー州立大学に留学し、ユタ州ならではの発見や大学での貴重な経験を多くしました。オグデンに暮らしていて気付いたのは天候の予想が出来ないことです。急激に気温が下がり、雪が積もり始めたのは11月でした。このまま春まで寒さが続くのかと思っていましたが、不定期に暖かさが戻ってきました。その為、日中になるといつもの厚着をしてしまった自分を恨むことになります。3月に入った今でも、変わらず寒さ対策が必要であります。また、テクスギビングデーやクリスマスなどの日本とは違った祭りを過ごすことは異文化への理解を深めてくれました。それと同時に、どれほどの大きいお金がこれらの祭日によって動いているのかを想像するとゾッとしました。



前期ではヨーロッパからの留学生が多く、特に、スペインからの留学生とよく交流していました。スペイン語を教えてくれたり、学校内でのイベントと一緒に参加するなどアメリカ人とだけでなく、一緒に時期に留学している仲間を得ることができ嬉しく思います。前期が終わると共に彼らは帰国してしまい、悲しく思っていたのですが、今学期が始まりネパール出身の生徒と知り合うことが出来ました。おすすめの美味しいカレー屋さん連れられてもらい、伝統料理をいただきました。彼らの文化を尊重し、右手を使い完食したのですが、スプーンやフォークを使うより美味しく感じました。彼らの文化に直接触れることを通し、国境を越えての交流は新たな視点をもたらしてくれると実感しました。



新学期が始まり、授業ががらりと変わりました。前期では、パブリックスピーキングやイングリッシュといった英語に集中した授業と2つの経済、経営の授業を取っていました。後期は、1つはオンラインなのですが、それ以外の3つの授業は変わらず対面授業で行われています。特に、前期と変わっている授業は、社会問題についての授業です。この授業では、サービスワークという授業外でのボランティア活動を15時間行うことが強制されています。日本とは違い社会問題がより目に見えやすいアメリカで行う課外活動は貴重な経験であると考えます。なので、この機会を存分に利用し、問題に直接触れることで得られるものを大切にしたいと思います。私がお世話になっている団体では、低所得層の家庭が貧困から抜け出すための会議を毎週水曜日に2時間ほど行っています。親が会議に参加している時間に、彼らの子どものお世話をすることがボランティアの活動内容です。英語が第2言語である家庭、特に、スペイン語を話す方が参加されることも多いです。また、ひとりひとりの性格や家庭環境が違う為、どのように皆の注目を集め、有意義な時間を作り出すことが出来るかを考えることが重要となっています。



ビクトリア大学（カナダ）
文学部 英語英米文学科 3年
【交換留学】留学期間：2022年1月～2022年4月



早くも留学生活が残り半分となりました。当初1年留学を予定していたのですが、コロナの影響により半期になってしまいました。それでも大学を通しての目標であった留学をしたいという強い思いからカナダのビクトリア大学に留学を決めました。私は海外に住んだことも無ければ、海外旅行も経験したことが無かったので、初めて、しかも1人で海外に行くことはとても不安でしたが、カナダに行く前は期待と好奇心でいっぱいでした。

しかし、カナダに来てから半月ほどは何よりもまず言葉の壁を痛感し、この先やっていけるのだろうかと心が折れそうになりました。周りには英語圏以外の国から来た学生や日本人の留学生も多くいますが、全員と言っていいほど英語を話せます。私の場合、日常会話程度なら話している内容は理解することが出来ました。しかし、話すことに苦手意識があったので、私だけが会話に入ることが出来ずに、ただ話を聞いているだけになり、心の中では言いたいことがあっても自分から何か話すことはしませんでした。ある時、1人のヨーロッパから来た留学生と話していたのですが、その時もほとんど自分

の話はせずに、相手が話しているのを聞いていました。するとその友達から「なぜ君はそんな静かなの？」と聞かれ、英語あまり話せないから・・・と答えると、「そんなこと気にしなくていい、ただ僕は君の話をもっと聞きたいんだよ。」と言われました。確かに、周りの友達はほんの少し日本語の単語を知っているだけでも日本語話せるよと自信満々に話していたりするのだから、もっと自信を持っていいのかもしれないと気付きました。そこからは積極的に会話に入り、詰まっても心の中で思っていることを口に出すようにしています。

2 か月が経った今もまだまだ日常会話でも流暢に話すことは難しいですが、寮のルームメイトとディナーをしたり、他の友達と旅行に行ったりして、積極的に会話に参加するようになってからは楽しい毎日を過ごすことが出来ています。学習面においては、難しくてなかなかついていくのに苦労しているというのが現状です。内容の難しい課題がとても多いので、毎日課題に追われています。また、授業中教授の言っていることが分からないことも多いので、毎回授業は録音して、分からなかった部分を聞き直すようにしています。留学に来て、この報告書ではとても語りつくせないほど様々な経験をしています。とにかく何事も”TRY”を意識して、残りの留学生生活を無駄にすることの無いよう、生活面においても、学習面においても、全て吸収して日本に帰りたいと思います。



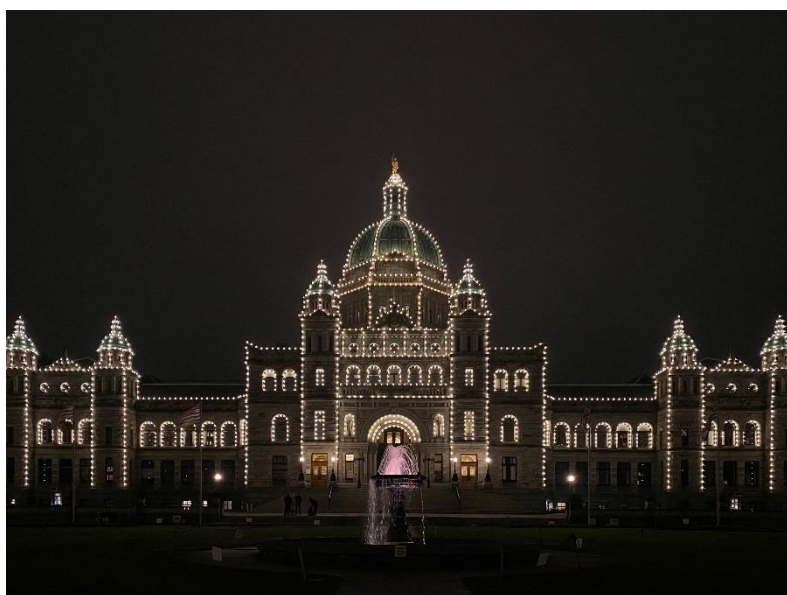
ビクトリア大学（カナダ）
マネジメント創造学部 マネジメントコース 3年
【交換留学】留学期間：2022年1月～2022年4月



カナダに来て早約2ヶ月が経ちました。授業も残り3分の1程度となり、終わりが近づいていることを日々感じています。正直、夏もビクトリアで過ごしたい！という気持ちがあります。また、「日本に帰りたい」と思ったことはこの2ヶ月間ではありませんでした。しかし、何の不自由もなく、授業を受け、友達とも遊んでいるから、というわけではありません。辛い・悔しいと思う場面はたくさんありました。この中で一番悩んだことは、友達作りでした。

私は、大学の寮ではなく、ホームステイといってカナダ人の方のお家に一緒に住み、お世話になっています。しかし、多くの交換留学生は寮に住み、ルームメイトと一緒に生活をしています。私はホームステイであるため、自分から出向いて行かないと他の留学生に出会えません。だから私は多くの人が集まる機会には積極的に参加していました。その結果、ヨーロッパの人たちと一緒に出かける機会を作ることが出来ました。遊びに行くことができてとても嬉しかったのですが、アジア人は私一人であり、話している内容も7割程度しか正直分かりませんでした。英語のスキルの差だけでなく、発言も活発なため、どんどん会話は進んでいき、孤独を感じる瞬間もありました。しかし、周りと比べても仕方がないと考えました。住んできた環境が違えば当然英語のスキルも異なる。では、自分はどうしたいのか、ということを考え、まず一番に、「ここでしかできないことを楽しみたい」と思いました。

その次に、みんなと過ごす中で、英語のレベルを少しでも上げたいと思いました。そして、自分がしんどくならない程度に少しずつ友達に話しかける回数を増やし、時には聞くに徹してみたり、というように行動していました。聞くだけでもとても勉強になりました。この単語はこうやって使うのか、とかこのときはこういう言い方をするんだというように生きた英語を学ぶことが出来ました。レベルの高い環境であったからこそ生まれた葛藤と、必要性の高い学び、そして異文化交流ができて良かったと思います。私がホームシックにならない理由の一つとして、自分のペースを保てていることがあると思います。そして、最近、ラクロスクラブに入部しました！初めて挑戦するスポーツで、他の留学生などはいませんが、新しい人たちに会えたので挑戦して良かったなと思います。残り2ヶ月も「楽しむ」ことを頭に置いて、生活していこうと思います。



リーズ大学（イギリス）
文学部 人間科学科 3年
【交換留学】留学期間：2021年9月～2022年6月

私は大学入学後、すぐに留学するための勉強を始めました。新型コロナウイルスの蔓延により予定通りに留学準備を進められませんでしたでしたが、それでも希望していたリーズ大学に留学できると決まったときは、とても嬉しかったことを覚えています。

私がリーズ大学を選んだ理由は2つあります。一つ目は世界中から人が集まる権威ある大学であることです。リーズ大学には約40,000人の学生が通っており、その中の12,000人はイギリス国籍を持たない学生です。実際に私が生活する中で出会う人たちの半数以上が留学生で、同じ境遇の学生が多くいることはとても心強く過ごしやすいと思います。二つ目は甲南大学へ来ていた外国人留学生の中にリーズ大学に通っている友人がいたからです。甲南大学にある国際交流の制度を活用することで、留学前から現地の友達を作っておくこともできました。新しい環境での生活が始まる前から、知り合いが1人いるのといないのでは、心の余裕が大きく違うと思いました。またこの経験は人が置かれた環境によってもパーソナリティを変化させることを学ぶ上で大きく役立ちました。現地人として留学生と接する自分と、留学生として現地人と接する自分では様々な面で違いが生まれ、新たに発見する自分の側面にも気付くことができました。

私は留学を始める以前は正直軽く考えていました。9か月は数字で見ると長い期間ではないし、楽しいことばかりが待っていると自然と思っていたいました。しかしここまでの留学生活を振り返ると、大変なことばかりだったと思います。授業に出れば発言をするたびに足がすくむほど緊張したり、毎日のように新しい人に出会い、疲れていくうちに英語を話すのが嫌になったり、レポート提出の為に寝ずに図書館で勉強したりと、思っていたような楽しいだけの日々ではありません。しかし大変な経験だからこそ、共有できる仲間ができ、切っても切れないような友人ができたと思います。

留学準備を進める上で大切なことはメンタルヘルス対策だと思います。なぜなら私自身、思ってもみなかったホームシックに2か月ほど苦しめられたからです。今思えば全く違う環境に置かれて精神的に不安定になるのは当然のことだと思いますが、留学前は楽しみな気持ちが大きすぎてホームシックの対策などを全くしていませんでした。全ての留学生が一度は挫折を経験すると思いますが、そんな時は外に出て身体を動かしてみたり、日本人の友達を作ってみたりすることが良いと思います。



マードック大学（オーストラリア）
マネジメント創造学部 マネジメントコース 3年
【交換留学】留学期間：2022年2月～2022年11月

この留学を迎える前に、自分で目標にしていた英語で会話を多くこなすという目標を達成するためにも、ルームメイトとの会話の回数を増やすよう食事の時間はリビングで食べることで他のルームメイトが通りかかるたびに声をかけて会話をするようにしています。

表面上の会話だけでは遊びに行けるほどの仲にはなれないと思い、少し踏み入った話などをすることで、より一層打ち解けることもでき、そのかいあってか車で日本食を食べに連れて行ってもらなどしました。ルームメイトとはよく一日の終わりにリビングでご飯などを食べながら、だらだら会話することで英語力を鍛えています。個人的にこの時間がとても気に入っています。ただ、ノンネイティブ同士のテンポの遅い会話よりネイティブ同士の会話の方がどうしても盛り上がってしまうことが多く、そうすると全く理解できず、笑いのポイントも分からず会話に取り残されることも多々あり悔しさを感じました。それでも常に自分から行動することを忘れずに、遊びに行くときやイベントに参加するときも自らネイティブを誘い出すようにしています。そうとは言ってもネイティブ同士の会話を目の当たりにし打ちのめされての繰り返しなのですが。その中でも果敢に会話に入っていくように心がけることと、わからない点を聞くと教えてもらえるので、なるべく割って入ることを意識しながら会話しています。

さらにそういったイベントで同じテーブルになった人たちにも話しかけたり、また授業でも自ら話しかけることで、学校内を歩いていたら話しかけてもらえるようになったり、一緒にテスト対策をしたり、遊びにも行けて、だんだん英語圏の友達の輪が広がっているのを感じることができています。

次は授業に関して話そうと思います。1回目の授業で想像以上に何をしているのか分からず戸惑いましたが、予習と復習をしっかり行い授業に臨むとどういった方向へ進んでいる授業なのか理解できるため、少しはましになりましたがそれでも未だ苦戦中です。また他の学生ですでにこの授業を取った人にどういった勉強をすればいいのかなどヒントを貰うなど、いろいろな人に助けてもらっています。



ライプツィヒ大学（ドイツ）
文学部 英語英米文学科 3年
【語学プラス留学】留学期間：2021年11月～2022年7月

ライプツィヒに来てまず大学の協定校である語学学校の interDaF に12月から通いました。ドイツの中でも有名な語学学校であり、授業のカリキュラムはコース修了後に受ける修了テストに向けての対策を主に進められ、そのテストに合格すると修了書を受け取ることができるので、ドイツの大学に正規入学するために受講しているという生徒の方が多いです。それもあり、授業内容もレベルが高く、とても素晴らしい学習環境でした。甲南大学ではB1のコースに合格しなければライプツィヒ大学での授業が受けられないとされているので、まずはB1のテストに合格することに励みました。その後、続けて大学では特に基準として必要とされていませんが、B2のコースに参加し、無事修了することができました。各コースわずか2か月というインテンシブコースだったのでその分中身が濃く、授業内容は充実していました。



ちなみにドイツの冬の恒例行事と言えばクリスマスマーケットです。今年はコロナウイルスの感染の拡大後初のクリスマスマーケットが開催される予定でしたが、私の住んでいるザクセン州では特に感染者数が多く、急遽中止となってしまいました。11月ごろからすでにクリスマスマーケットの飾り付けや屋台の準備が始まっていたのに、中止と決まり開催されることもなく、悲しくも解体されていってしまいました。ですが、ドイツ全域で中止されたわけではなく、州によっては開催されていたので、他地域のクリスマスマーケットには行くことができ、ドイツのクリスマスを味わうことができました。

4月に入り、ライプツィヒ大学に通う生活が始まりました。講義によっては、留学生が多くいろいろな国の学生さんたちが参加しています。私の専門は英語英米文学科なので、講義はすべて英語で行われています。先月までドイツ語漬けの生活を送っていたので英語とドイツ語が混ざってしまいそうになりますが、頑張ります。残すところドイツでの留学生活もあとわずかとなりましたが、毎日大切に過ごしたいと思います。



東義大学（韓国）
法学部 法学科 2年
【交換留学】留学期間：2021年8月～2022年6月

留学生活も半年が過ぎ、だいぶ慣れてきました。初めは帰りたと思うことが多く、1年が長いなと感じていましたが、友達が沢山できたお陰で、毎日充実した日々を過ごせており、今では残り4ヶ月になってしまい、少し寂しく感じています。この半年間で沢山の所を訪れました。釜山の有名な場所だけではなく、少し深い場所まで行くことができ、韓国をより知ることができました。

長い休みも終わり、3月から学校が始まりました。春学期は秋学期とは違い、専門科目だけの授業なので、正直不安でした。いざ授業に行ってみると、「1年しかない留学なのだからテストや授業のことは気にせず沢山遊ばなさい。」と仰って下さる教授がいて、気持ちが楽になりました。

私は法学部の授業を受けていますが、授業は基本講義形式なので、教授の話聞くという授業ばかりです。勿論難しい内容なので全く理解できない授業もありますが、日本で習っていたこととほとんど同じ内容だったりすると、意外にも聞き取ることができ、成長したかなと少し嬉しくなります。ですが、まだまだ聞き取ることができても、いざ話すとなると言葉が出てくるまでに時間がかかったりするので、もっと話す練習をしなければと思っています。

生活面では、韓国とは文化が似ているのでカルチャーショックはほとんどありませんが、海外で生活するようになって、日本の良いところが顕著に感じられるようになりました。例えばコンビニです。海外でも人気の高い日本のコンビニですが、本当にクオリティの高さに改めて気付かされました。韓国に来て品数の少なさや在庫の少なさ、賞味期限切れの商品も普通に売られていることに驚きました。また、韓国では笑顔で愛想の良い店員さんはほとんどおらず、日本はとても教育が行き届いているのだなと改めて感じました。

旅行だと、その国の悪い面が見えることはありませんでしたが、留学をしたお陰で、日本の良さを知ることができたので、これも良い経験ができたと思っています。残りの留学生活も悔いなく、もっと語学を上達させて帰れるようにします。



東義大学（韓国）
文学部 英語英米文学科 2年
【交換留学】留学期間：2022年2月～2022年6月

東義大学に来て1ヶ月が経ちました。コロナ禍での入国ということで入国審査や隔離生活など、コロナの事で不安なことが多々ありましたが、最近は少しずつ緩和され外出も楽になってきました。生活面でも買わなければいけないものが多かったり、バスや電車の乗り方が全く分からなかったりと大変なことが多かった最初に比べるとだんだん慣れてきました。休みの日には友達とカフェ巡りに行ったり一人で買い物に行ったり出来るほど、生活は落ち着いてきました。

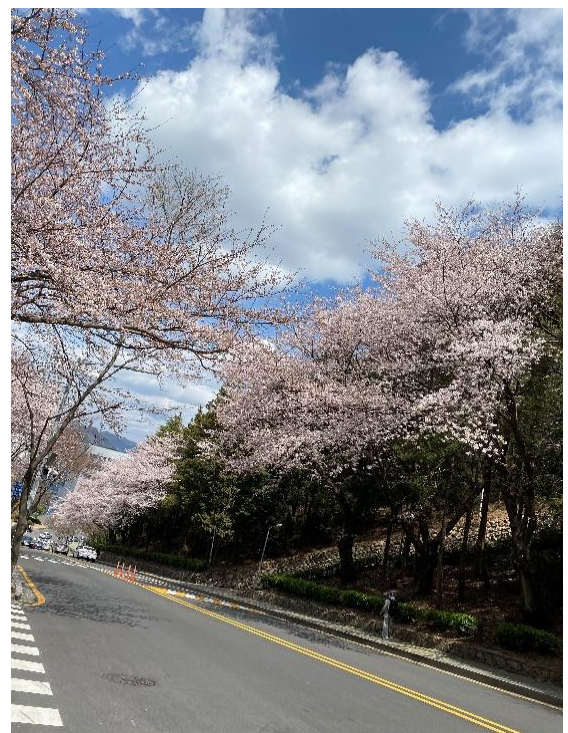
学校では語学堂の授業が午前中にあり、午後には英語学科の英語の授業と留学生向けの韓国語の授業の2つを受けています。語学堂の授業は80分の授業が2時間、50分の授業が1時間あります。どの授業も先生方が優しく丁寧に教えてくださるのでわかりやすいし、分からないことも質問しやすいです。日本人以外にベトナム人の学生がいて、お互いの文化を共有しあえるので面白いです。英語の授業はネイティブの先生の授業で、実際に英語で会話の練習やプレゼンテーションを行います。日本人は私一人なので最初は緊張していましたが、周りの人が優しいので問題なく受ける事が出来て良かったです。



授業の他にも日本語学科で日本語を学んでいる韓国人との交流会にも参加しています。自分が今まで感じた事のなかった日本語の難しさが知れ、周りの学生たちが一生懸命日本語を話してくれるので、自分ももっと韓国語を頑張ろうと思いました。

最初の方は日本人の留学生と固まって行動する事が多かったですが、日本語を喋ることが増えてしまうので他の国から来た留学生ともできるだけ交流するように頑張っています。最近では日本人の留学生とヨーロッパからの留学生、日本語、英語のチューターで海雲台という観光地に桜を見に行きました。私は国際交流が好きなので、多言語が飛び交う空間がとても面白く、楽しかったです。

このように、言語力を上げるだけではなく、出来るだけ沢山の人と交流し、悔いの残らないよう帰れるように残りの生活も頑張ります。



漢陽大学（韓国）
経営学部 経営学科 3年
【交換留学】留学期間：2022年2月～2022年12月

韓国へきて1か月半が経ちました。韓国で生活してみて、交通面やサービス面で驚きました。日本では、車やバイクは歩行者優先で動いてくれるので、自分もそれに慣れていたのですが、韓国では歩行者優先ではなく、日本の感覚で歩いていたら、車やバイクが自分とすれすれのところまで来るのでひやひやしました。また、韓国では、働いていても暇な時間には携帯を触っていたり、職員同士で喧嘩していたり、日本では見慣れない光景を体験し、驚きとともに改めて日本のサービスはクオリティがとても高いと感じました。反対に、韓国の良いなと感じた文化は、情に厚いところです。飲食店では、頼んだものの以外にもおかずがたくさんもらえたり、ご飯をサービスしてくれることが多いです。また、話しかけてくれることも多く、すごく暖かく接して下さるので、家族と一緒にいるかのように居心地がよく、1人でも寂しさを感じません。知らない人にも分け与えてくれようとする、暖かい情の文化が、韓国の好きなのところの1つです。



私が、留学にきて最もよかったと感じていることは、様々な国の人たちと出会えることです。語学堂に通い日本人・中国人をはじめ、ロシアやメキシコ、アメリカ、イタリアからきた友達と共に韓国語を勉強しています。授業中には、それぞれの国の文化や習慣、国によつての違いを知ることができるので、とても面白いです。日本では、海外の人と出会う機会がなかったのですが、韓国では大学内や寮、街中でも多く見かけます。私は、バディプログラムというのに参加していますが、韓国の学生と、交換留学生3人で1チームとなり活動しています。そこでの会話はすべて英語で行われています。私だけが英語が話せない状況ですが、チームのみんなが私に、日本ではどうなの？という風に話を振ってくれたり私の英語を一生懸命聞いてくれます。韓国語だけではなく、英語に触れ、使う機会ができたことが私にとってすごく意味のある、貴重な機会です。韓国に、漢陽大学に留学にきてよかったと思っていますので、この機会を大切にしたいです。韓国留学が私の人生で初めての挑戦なのですが、すべての出来事が、新鮮で、楽しく、充実した時間を過ごしています。後期は専門科目を履修する予定で、より韓国語能力が必要になってくるとは思いますが、一生懸命頑張ります。



漢陽大学（韓国）
経営学部 経営学科 2年
【交換留学】留学期間：2022年2月～2022年12月

私は、2022年2月に出発し、韓国・ソウルにある漢陽大学に交換留学生として通っています。コロナ禍での留学ということで、入国時に必要な書類や、条件などが日を追うごとに変わるため、最新の情報を常に把握しておかなければなりません。入国後7日間の隔離を経て、3月から新学期が始まりました。漢陽大学はオンライン授業のため、キャンパスは毎日たくさんの学生たちでにぎわっています。

私は、漢陽大学で、経営学部の専門科目1つと、語学堂の授業を履修しています。経営学部の専門科目は現地の学生とともに授業に参加するため、すべて韓国語で授業が行われます。そのため、事前に資料や、教科書に目を通し、予習をすることが非常に重要になります。授業の進むスピードも速く、4月中旬に行われる中間考査の範囲は、教科書約300ページになります。日本の大学の授業との大きな違いは、チーム発表があることです。3～4人で1つのグループになり、事例発表を行います。事例を通して、議論する主題を決め、討論を行います。私は、発表資料と発表のクオリティーに驚きました。取り上げる企業を細部まで、調査していることがうかがえました。また、学生たちの積極的な意見を述べる姿も印象に残っています。語学堂の授業は、月曜日から金曜日まで毎日4時間あります。同じクラスには、ドイツや中国、ベトナムなど様々な国の学生が集まり授業を受けています。毎日新しい単語、文法、表現を学ぶので、大変ではありますが、とてもやりがいがあります。

休みの日には、感染対策を行いながら、気分転換に遊びに行きます。現地の学生が留学生のサポートをしてくれる「バディプログラム」という活動があります。バディの方々と一緒に、ソウルの観光地やカフェに行くなどの交流を行い、楽しみながら実践的な韓国語を学んでいます。

毎日、学ぶことが多くあり、非常に充実した日々を過ごしています。留学に来て、約1か月ですが、言葉の壁にぶつかることが多くあり、悔しい思いを何度もしました。この悔しさを忘れず、今後の勉強のモチベーションに繋げていきたいです。



漢陽大学（韓国）
経営学部 経営学科 2年
【交換留学】留学期間：2022年2月～2022年6月

入国後7日間の隔離を経て2022年2月から漢陽大学に留学しています。入国して約2ヶ月が過ぎ、最初は理解ができなかった韓国語が今は理解できるほど留学生活に慣れ、勉強と余暇生活の両立に慣れてきました。漢陽大学のキャンパスはとても大きく、学部の建物ひとつひとつが甲南大学の1・3号館ほどの大きさに驚きました。学生寮から経営学館まで10分、語学堂まで20分ほどかけて坂道を歩き登校します。校内では電動スクーターに乗って移動する学生やタクシーで学校に来る学生もいるほど大きな大学です。

また、日本と違って韓国は3月から授業が始まり、漢陽大学は今学期から原則対面授業のためキャンパス内は在学生や留学生で賑わっています。留学生に会わない日がないほどキャンパスではさまざまな言語が飛び交っており、韓国でありながらも異国感を感じられます。コロナ前はアジア圏の留学生が多いと韓国の人在学生に聞きましたが、現在はヨーロッパ圏の学生が多いとのこと。

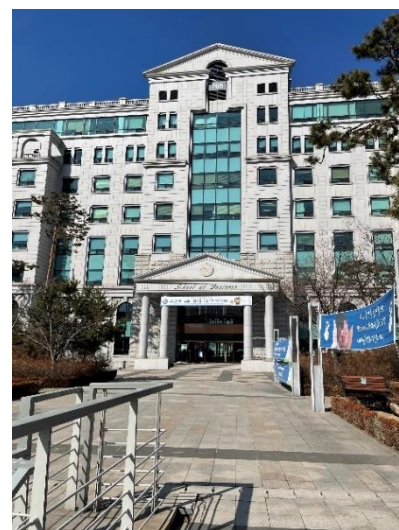


授業は学部授業と語学堂を受講しています。韓国では経営学部が「文系の華」と言われているほど、難易度が高く、英語の重要性和専門性を感じました。私は「サービスマーケティング」と「企業経営とビジネス戦略」という授業を選択しました。サービスマーケティングではグループワークがあるため、中国人と韓国人の方とグループワークをしています。さまざまな国の方とグループワークをすることで各国の事例を探しやすく、アイデアが沢山出てきたためテーマを何にするか悩む場面もありました。

語学堂では1～6級のまでクラスがあり、私は4級からスタートしました。クラスは交換留学生14人で構成され、日本・台湾・イタリア・ベトナム・アメリカ・ドイツと様々な国籍の人がおり、日本人が7人と多いクラスでしたが、関西圏以外の方がいたため新たな繋がりを作ることができました。休憩の時間に韓国語を使って母国の話を聞いたり、おすすめのカフェや旅行スポットを聞いたり話す練習にもなり、コミュニケーションをとることがとても楽しいです。

漢陽大学では留学生向けに沢山のプログラムがあり現在は5つの交流会に参加しています。最近ではHow Friendsという活動に参加しており、韓国人が留学生に対して体験や遊びを通して韓国を紹介するというプログラムです。留学生2人と韓国人2人で構成されたグループで週に1回活動しています。

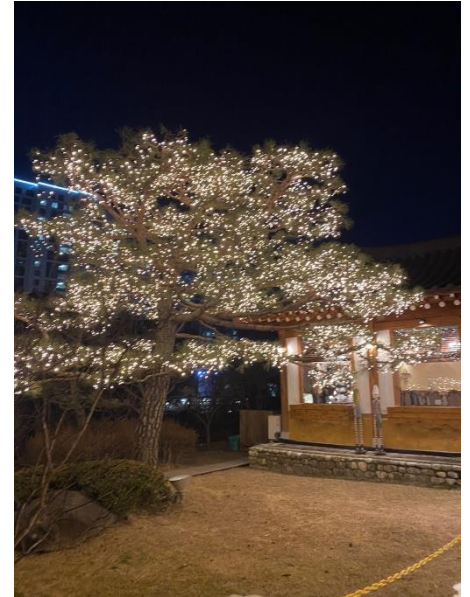
最後に、私は半期のみの留学のため、有意義に過ごすために積極的に活動するようにしています。しかし、現地の方と話すとき文法を誤って使っているのではないかと恐れてしまうこともありましたが、私の方からアクションしないと何も始まらないため留学を通して、自分から行動する力の重要性を改めて思い知りました。留学生活も中間地点となりましたが、今よりもっと成長し充実した日々を送りたいと思います。



慶熙大学（韓国）
経営学部 経営学科 2年
【交換留学】留学期間：2022年2月～2022年6月

韓国慶熙大学に来て、もうすでに1か月が経ってしまいました。残りわずか3カ月しかないことに驚いています。慶熙大学には、留学生と海外に興味のある韓国人大学生とが交流する機会がたくさんあり、様々なプログラムが行われています。

例えば、バディ制度や言語交換制度です。バディ制度とは、慶熙大学で学ぶ交換留学生が韓国で有意義な留学生活を送るために、韓国人学生が大学での勉強や日常生活のサポートを行う制度です。私は週1回バディと1対1で、韓国と日本の文化の違いについてズームを通してディスカッションしたり、韓国人2人留学生4人の計6人のグループでご飯を食べに行ったりもしています。グループで集まった時は、他の留学生もいるので全て英語での会話になります。私は英語が得意ではないのですが、みんなとても親身になって私のつたない英語を理解してくれることにとても感動しました。また、言語交換制度とは、仮に私が韓国人大学生に日本語を教えるのならば、代わりに日本語を学びたい韓国人学生が韓国語を教えてくれるという制度です。



私の寮は2人部屋でルームメイトは韓国人です。基本、日常会話は韓国語で話していますが、韓国でよく使われる新造語などを教えてくれたり、昼食を毎日一緒に食べたりと、仲良く過ごしています。また、私は慶熙大学のダンスとピクニックをするサークルに入り、この間、第1回目の集まりに参加してきました。ダンス練習室を借り、2グループに分かれてダンスをし、ご飯を食べ、カフェに行きました。ダンス初心者の私はついていけるか不安でしたが、友達が助け、教えてくれ、このサークルに入れて本当に良かったです。

学習面では、私の受講している科目が専門教科ということもあり、韓国語での専門用語の読み書きや聞き取りにとても苦労しています。そのため、日本で勉強していた時よりもはるかに時間がかかるので、中間試験が4月末に行われますが、3週間前から前もって勉強の準備も始めなければなりません。残り3カ月しかありませんが、めいっぱい楽しみ、現地の友達もたくさん作り、勉強にも力を入れていきたいと考えています。

